

平成 25 年度フード・バレーとちぎ農商工ファンド助成金 交付決定案件

1 県内中小企業者等と県内農林漁業者との連携体への助成（直接助成事業）

番号	事業区分	連携体及び事業名称	事業概要	助成額 (千円)	交付 決定日
1	新商品等 開発支援 事業	(株)白相酒造 那須南農業協同組合 「栃木県産「栗」を 使用した「栗焼酎」 をベースとした「栗 リキュール」の開 発」、及び効果的なデ ザインの開発	南那須地域の栗産地復活プロジ ェクトの一環として、栗を原料とし た栗焼酎を開発したが、既に生産し た栗焼酎を活用し、栗ペースト等を 用いて、全国に発信可能な高品質な 栗リキュール、及び効果的なデザイ ンを開発する。	600	H25.6.4
2	新商品等 開発支援 事業	栃木乳業(株) ま〜るかめ農園 「ユウガオ果実の食 感を活かしたヨーグ ルトの開発」	栃木県の代表的な物産物である かんぴょうは全国生産量の約 98% を占めており、国内流通量は約 3,000 トン、その約 250 トンが国内産と なっており、約 9 割が輸入品であ る。ユウガオ生産者も加速度的に減 少しており、ユウガオの新たな用途 開発をすることで、消費拡大の可能 性が広がるため、栃木乳業(株)が栃木 県産ユウガオの実を使用したヨー グルトを開発設計し、ユウガオの実 の物性評価を活かした試作研究を 行う。	609	H25.6.4
3	新商品等 開発支援 事業	(有)岩上商店 渡辺 清 「大田原市特産ウド の緑葉エキスを配合 する甘酒の開発」	大田原市内で生産出荷されてい るウドは、根株から成長した茎の部 分であり、通常、葉は廃棄処分され ている。しかし、ウドの緑葉には抗 酸化作用を示すポリフェノール成 分のクロロゲン酸類が多く含まれ ている。本事業では大田原市特産ウ ドの乾燥緑葉からクロロゲン酸類 を含有するエキスを抽出し、配合す る機能性食品・ウド甘酒を試作品開 発し、これによってウド栽培及び地 域企業の活性化を図る。	1,596	H25.6.4

4	新商品等 開発支援 事業	こいしや食品(株) (有)山口農園 (株)前田牧場 古谷農産 「県産納豆小粒と干 瓢を原料とした商品 開発と食育」	県内農業の活性化と県内児童へ の食育を兼ねた県産原材料を使用 した納豆の試作・開発をする。納豆 用小粒大豆の作付による休耕地の 有効活用と県内児童への食を通じ た食育活動により「干瓢」に触れて いただき、学校給食等の特定市場分 野を確立する。	1,439	H25.6.4
5	新商品等 開発支援 事業	(有)グルメコング (株)スズキプレシオン 麦島農園 「新里ネギ加工食品 創出による新里ネギ 及び新里ネギ生産地 域のブランド化事 業」	新里ネギ原料にした商品の開発 と素材原料の開発。 ●B t o C消費者向け商品 刀葱シリーズ（すき焼き味煮、 塩味直焼、スモーク）、侍カレー、 ドレッシング、ポン酢類 ●B t o B飲食事業者向け商品 ネギペースト及びネギペース ト商品	2,490	H25.6.4
6	新商品等 開発支援 事業	(株)もてぎプラザ 三村 卓久 「茂木町特産エゴマ の葉を使った機能性 紅茶“ジュウネンも て茶”の開発」	茂木町内で生産され活用されて いるエゴマは搾油に使用する実の 部分であり、通常、葉は廃棄処分さ れている。しかし、エゴマの緑葉を 使って試作した紅茶には高い抗酸 化活性が認められることから、本事 業ではエゴマの緑葉を使った新た な機能性紅茶“ジュウネンもて茶” を開発する。	1,663	H25.10.10
7	新商品等 開発支援 事業	(株)すが野 下野農業協同組合 「壬生町産の新たな 地域農産物“壬生菜” を使った漬物の新商 品開発」	“壬生菜”は伝統的な京野菜とし て知られているが、壬生町では当品 種を町名にちなんだ新たな地域農 産物ブランドに育て、特産品として 定着を図っている。壬生菜の漬物は 関西地方で作られたものが大部分 を占めているが、これを関東風味の 漬物として商品開発することによ り、他商品との差別化を図る。	1,412	H25.10.10
8	新商品等 開発支援 事業	金田果樹園 荒牧りんご園 栃木マイクロブルリー (株)横倉本店	完熟にっこり梨・完熟りんご・完 熟苺・完熟ぶどう・完熟桃をジュ ース加工し、ビール醸造の原料として 利用・加工することで、4種の「栃 木県産ビール」を開発する。	1,885	H25.10.10

		「フルーツビールの 新商品開発～完熟の にっこり梨・りん ご・苺・ぶどう・桃 果汁を用いて～」	樽詰ビール商品を(株)横倉本店の 多様な販売網に展開することで、栃 木のにっこり梨・りんご・いちご・ ぶどう・桃の知名度向上を目指す。 また、現在人気が高まりつつあるク ラフトビール(地ビール)のうち「フ ルーツビール」を開発することで、 ビール市場に「女性顧客」を取り組 むことを可能とし、さらにビールフ ァンを栃木の観光果樹園・地ビール ブルワリーへの来場や栃木県産果 物の購入へと繋げたい。		
9	新商品等 開発支援 事業	カクヤス商販(株) 常盤農園 「ジャンボむかごの 粉末の開発および粉 末を使った加工品の 開発」	常盤三男氏の特許申請中の技術 である、ジャンボむかご栽培方法を 用いて多くの生産者に栽培しても らい、ジャンボむかごの量産を進め るために、限られた期間だけではなく 1年を通して販売出来るような 商品づくりが必要となる。このた め、乾燥粉末にする技術の研究、粉 末を使った商品開発、開発する商品 の市場調査などの研究開発を行う。	1,583	H25.10.10
10	販路開拓 支援事業	(有)釜屋 サンファームオオヤ マ(有) 「栃木市産トマト入 りハヤシライスのレ トルト商品セットの 販路開拓」	平成23年度フードバレーとちぎ 農商工ファンド活用助成事業を活 用して開発した製品の販路拡大の ため、平成24年度フードバレーとちぎ 農商工ファンド事業(販路開拓支援事 業)を活用し、展示会に出展し、一 定の引き合いを得ることができた。 それを踏まえ、ハヤシライスとドラ イトマトの組合せ方、他の商品との コラボによるギフトセット商品化 など、商品の見せ方に工夫を凝ら し、ターゲットに応じた具体的な提 案を行う。	1,977	H25.6.4
11	販路開拓 支援事業	(株)野州たかむら 渡辺 清 「大田原市特産ウド の緑葉エキスを配合	平成24年度フードバレーとちぎ農商 工ファンド活用助成事業を活用して開 発した大田原市特産のウドの乾燥 緑葉からクロロゲン酸類を含有す るエキスを抽出し、配合する機能的	1,989	H25.6.4

		する「与一くんウド 飴」の販路開拓」	飴食品「与一くんウド飴」の販路開拓及び商圏拡大を目指すため、展示・商談会に出展する。		
12	販路開拓 支援事業	(株)ユーズプロセス 丸福農園 「にっこり梨をはじめとした県産農産物を活用したフルーツゼリーの販路拡大」	鹿沼商工会議所 農商工連携新製品開発事業において共同開発した「にっこり梨ゼリー」に新たにトマトやリンゴをラインナップに加えて、新たな販売ルート・提供方法の構築を行うため、展示会に出展する。	1,576	H25.6.4
13	販路開拓 支援事業	(株)スクラムフーズ 山野井農園 「栃木県産農産物を原材料とした他にない「トマトジャム」の販売」	平成24年度フードバレーとちぎ農商工ファクト活用助成事業により、トレーサビリティを活かした、県内で唯一栽培されているトマト(ファーストジュニア)を使った「ジャム」を商品化した。今年度は本商品を本格的に売り出すために、各種展示・商談会に出展する。	1,586	H25.6.4
14	技術高度 化支援事 業	(有)坂巻林産 高橋養鶏場 「燻製玉子加工未完成技術の確立及び高品質の追求化」	高温多湿期になると鶏が体温をあげるため、水分摂取量が過剰になり白身の部分が固まらない現象が起き、販売者に売る時に欠品し迷惑をかけている。このため燻製装置の技術高度化に取り組み、高温多湿期の製造方法確立を目指す。	1,842	H25.6.4
15	技術高度 化支援事 業	(有)林屋川魚店 (株)山光 「木質バイオマスボイラーの廃熱を利用した鰻養殖」	廃校となった旧馬頭東中学校の教室を利用し、木質ボイラーによって材木を乾燥させた廃熱を利用し、重油ボイラーを使用せず地域森林資源を利用したの鰻の養殖に取り組む。	5,000	H25.10.10
16	技術高度 化支援事 業	(有)大地 農業生産法人(株)大地 のかほり 「省力的野菜生産システムの開発事業」	播種から収穫までをシステム化してリーフレタスの栽培を行う。次の項目について研究開発して、省力化農産物生産技術を確立する。 ①省力化農産物生産条件の確立(温度、水分供給量・養分供給量) ②効率的農産物生産システムの開発(機械仕様の決定)	5,000	H25.10.10
			小 計	32,247	

2 県内の農商工連携支援機関への助成（間接助成事業）

番号	事業区分	連携体及び事業名称	事業概要	助成額 (千円)	交付 決定日
17	農商工連携 支援機関助 成事業	(公財)栃木県農業振 興公社 「①新農業ビジネス 創出推進事業 ②い ちごプロジェクト推 進事業 ③販路拡大 支援事業」	①新農業ビジネス創出セミナー 農商工連携の推進を図るため、地 域資源等の活用についての啓蒙事 業を実施し、農商工連携を牽引する 若手起業家等を支援する。 ②いちごプロジェクト推進事業 いちごの生産性向上や需用拡大 等を目指すプロジェクト活動を支 援する。 ③販路開拓支援事業 「アグリフード EXPO 東京 2013」の 出展ブースを確保し、農業者等が開 発した新商品等を全国に PR する機 会を提供する。	650	H25.6.4
18	農商工連携 支援機関助 成事業	栃木県中小企業団体 中央会 「平成 25 年度農商 工連携人材フォロー アップ事業」	「人材」をポイントにした 2 本立 での事業で農商工連携を推進。 ①農商工連携人材集中研修事業 実地研修、商品開発演習に重点を 置いた手中研修事業（農商工連携人 材育成の継続・発展） ②農商工連携人材活用モデル支援 事業 育成された農商工連携人材の活 用による農商工連携推進モデル事 例の組成及びその成果普及事業	1,107	H25.6.4
			小 計	1,757	
			合 計	34,004	